

川で学ぼう

～川とふれあう学習～

「ホタルの生育を通じて環境を学ぶ」



岸本町立 岸本小学校

明治6年に地元のお寺を借用して開校された歴史のある小学校です。児童数は平成16年5月現在で332名。「きもちのよいあいさつをしよう」「しっかり勉強をしよう」「もりもりと朝ごはんを食べよう」「ともだちとそうじをがんばろう」という「きしもの子スローガン」のもとで、教育が行われています。

岸本小学校

岸本小学校で今年6月、ホタルを卵から育てる「ホタルクラブ」が発足しました。高学年の児童15人が、卵からかえったホタルの幼虫を観察しながら育てていき、来年春には水路に放流する予定です。

発足のきっかけは今春、箕蚊屋土地改良区から小学校に対して申し出があったことから。付近で改良工事中の水路を「ホタルの水路にしたい」という願いでした。「ホタルクラブ」は4年生7人、5年生7人、6年生1人のメンバー。昆虫や生き物に興味があった子どもたちだけでなく、クラブ顧問の浜家先生が理科の授業の中で小さなホタルの幼虫を顕微鏡で見せたことから「興味をもった」という子どもたちも参加しています。

クラブ発足の前に全校生徒の保護者に「ホタルの成虫をつがいのでつかまえてきてください」と協力を呼びかけ、集まったつがいから約800個の卵が生まれました。クラブでは現在、約1mmくらいの小さな幼虫を4つの水槽の中で育てています。子どもたちは、毎日水かえをしたり、幼虫のえさになる小さなカワニナを近所の川でとらえてきたりしています。浜家先生も箕蚊屋土地改良区の職員の方からの指導を受けながら、子どもたちと一緒にホタルの成長を見守っています。

浜家先生は、「ホタルの成虫を見ている子どもたちは結構ありますが、幼虫から育てるといことはほとんど無かったと思います。このクラブ活動を通じて、子どもたちが環境について考える良いきっかけになると思います。3月の放流を子どもたちと一緒に楽しみにしています」と話しています。

現在、水槽は小学校の正面玄関にあります。幼虫が大きくなったら全校生徒の目に付くところにおいて、子どもたちに見てもらいたいという話です。あわせてホタルの一生やホタルの住む川について紹介する展示物の作成も計画中だそうです。

3月の放流の後、来年の夏には「ホタルの水路」になるのが楽しみです。



水槽の水替えをする子どもたち



岸本小学校ホタルクラブ



水槽の水替えをする子どもたち